



八潮に
続く

特養ホームの増設 今こそ具体化を



住みなれた品川で
ずっと生活したい

特養ホーム増設を求める区民運動の広がりと共産党の議会論戦が力になり、来年5月に区内8つ目の特養ホームが八潮地域に開設します。実に11年ぶりの増設です。今、品川区政では待機者が550名にのぼるなか、八潮以降の特養ホーム増設の具体化が大きな争点にのぼっています。先の6月議会で、共産党は新たな特養ホーム増設に向けた展望を開きました。報告します。

特養ホーム

の増設を

品川区は八潮に続く特養ホーム増設について「運営しやすい大規模にしたいから土地は3千㎡が理想」「土地を皿のように探している」とのべ、具体化が進んでいませんでした。これに対し共産党は「区内に広い土地確保が難しい中で、大規模施設にこだわらず小規模でも必要数を早く作るべき」と早期具体化を要求してきました。

小規模特養ホームの整備を進める港区では、その施設の小さな霧囲気が作られ利用者や家族から喜ばれています。こうした議会論戦のなか、対照的な意見が他会派です。厚生委員会で行われた特養ホーム増設を求める請願審査で、自民・公明・民主ら区議会与党は「土地がない中で、区の方針を見守るしかない」となどと、請願署名に反対しました。裏へ

区議会とは区長が進める行政運営をチェック&監視する役割があります。私は区民要望よりも区長の顔色をうかがうでは区民のくらしはよくならないと思います。

ついに

新たな展望が

議会開催ごとに提出される特養ホームを求める住民署名と共産党の論戦が続く中、ついに今年の6月議会、品川区は「まとまった用地確保が困難な中で小規模特養ホームなど検討する余地がある」と発言しました。この発言は大規模施設にこだわる区の姿勢を変えさせ、新たな特養ホーム建設に道

を開くものです。住民運動と共産党の論戦が新たな特養ホーム増設に展望を開きました。

ならば

早く具体化を

当初、品川区は「大規模施設でない」と難しい」と述べていましたが、今は「小規模施設も検討」と変わってきました。ここまでできたのですから、あとは特養ホームの増設計画を具体化するだけです。

私には品川区が「作りたくない」理由をいろいろ述べているだけにも思えますが、それはそれとして、新たな展望が広がったのですから、一日も早い具体化を

求めたいと思います。

緊急課題

そもそも、品川区は今年の予算議会では「高齢者の生活支援は緊急課題。スピードをもって取り組む」と述べてきました。それこそ緊急課題というなら入所待ちをなくするため、大規模・小規模などあらゆる可能性を追求して特養ホーム増設を進めるべきです。地域で介護施設ができたと思ったら「有料老人ホーム」。その高額な利用料はとて負担できません。今こそ、特養ホームとあわせ、老健施設、認知症グループホームの増設などくらし応援の品川区に。なかつか亮

バス&歩く 区政報告会のお知らせ 再開見学ツアー

品川区が進める再開発事業を見学しませんか。大崎駅周辺の再開発事業では87億円もの税金が使われたマンションもあります。「再開発とは、どんな事業なのか」「あのマンション建設にどうして税金が使われるのか」など、実際の事業を見ながら、区政報告を行います。どうぞ、お気軽にご参加ください。バスに定員がありますので、参加希望者は事前にご連絡を。お待ちしております。

日時 9月11日(土) 出発: 西大井駅前9時
報告 なかつか亮区議会議員
参加費 500円(資料代など)
連絡先 区議控室 5742-6818 (中塚まで)

